

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230001
講義名称	理論看護学Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 池添 志乃	看護学科
畦地 博子	看護学科

資格・区分等	専攻共通科目：必修
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,DP5を修得するために特に重要な科目。DP3,DP4を修得するために重要な科目。
授業の概要	看護科学、看護研究における理論・概念開発の意義、哲学的な流れと開発、理論の基本的な成り立ちや理論の構造について学修し、自らの関心看護学領域の理論・概念の開発に向けて探究する。 看護学の哲学的基盤を発展させるために、看護理論や概念を批判的吟味する能力、自らの研究領域で活用できる理論分析や概念分析を行う能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1. 看護学の哲学的基盤について述べるができる。 2. 看護理論の成り立ちや構造について説明することができる。 3. 理論分析、概念分析の方法について理解し、分析することができる。 4. 概念分析の方法を用いて、関心のある概念を分析することができる。

授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	Introduction 科学論、科学哲学論の探究Ⅰ 理論発展の基礎 科学史、科学哲学の歴史的概観	畦地・池添
第2回	Introduction 科学論、科学哲学論の探究Ⅰ 理論発展の基礎 科学史、科学哲学の歴史的概観	畦地・池添
第3回	科学論、科学哲学論の探究Ⅱ 科学論の展開 関心のある学派及び哲学者の探究①	畦地・池添
第4回	科学論、科学哲学論の探究Ⅱ 科学論の展開 関心のある学派及び哲学者の探究①	畦地・池添
第5回	看護学に関連する学派の探究Ⅰ 看護学の哲学的基盤発展への方向性 看護学に影響を及ぼした関心のある学派および哲学者の探究② 日本における哲学の歴史	畦地・池添

第6回	看護学に関連する学派の探究Ⅰ 看護学の哲学的基盤発展への方向性 看護学に影響を及ぼした関心のある学派および哲学者の探究② 日本における哲学の歴史	畦地・池添
第7回	看護学に関連する学派の探究Ⅱ 看護学とは 看護哲学とは 看護における科学とは 看護における科学的方法とは 看護学の発展と今後の展望、発展のための方略	畦地・池添
第8回	看護学に関連する学派の探究Ⅱ 看護学とは 看護哲学とは 看護における科学とは 看護における科学的方法とは 看護学の発展と今後の展望、発展のための方略	畦地・池添
第9回	看護学の理論・概念開発の必要性Ⅰ 哲学と看護理論 看護理論の探究 看護理論の発展と他の学問領域	畦地・池添
第10回	看護学の理論・概念開発の必要性Ⅰ 哲学と看護理論 看護理論の探究 看護理論の発展と他の学問領域	畦地・池添
第11回	看護者の理論・概念開発の必要性Ⅱ 看護理論構築 看護理論の分析、既存の看護理論理論や概念の批判的吟味	畦地・池添
第12回	看護者の理論・概念開発の必要性Ⅱ 看護理論構築 看護理論の分析、既存の看護理論理論や概念の批判的吟味	畦地・池添
第13回	概念分析 理論分析Ⅰ 専門領域における理論・概念開発に関する課題 概念開発と概念分析	畦地・池添
第14回	概念分析 理論分析Ⅰ 専門領域における理論・概念開発に関する課題 概念開発と概念分析	畦地・池添
第15回	概念分析 理論分析Ⅱ 自らの関心領域の概念分析	畦地・池添
第16回	概念分析 理論分析Ⅱ 自らの関心領域の概念分析	畦地・池添

成績評価（基準と方法）	目標1、目標2、目標3、目標4について、クラスへの貢献度（30%）、プレゼンテーションの資料・内容（70%）を基に、総合的に評価する。
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・Beth L.Rodgers & Kathleen A. Knarl:Concept Development in Nursing, Second dition,2000. ・Denise F.Polit & Cheryl Tatano Beck:Nursing Research, 8th edition, 2008. ・ベギー・L・チン,メオーナ・K・クレイマー著:Knowledge Development in Nursing Theory and Process Tenth Edition,ELSEVIER,2018. ・サンドラ・Pトーマス,ハワード・R・ポリオ著,川原由佳里監訳:患者の声を聞く現象学的アプローチによる看護の研究と実践,エンゼビア・ジャパン, 2006. ・Lorraine Olszewski Walker & Kay Coalson Avant著, 中木高夫, 川崎修一訳:看護における理論構築の方法, 医学書院, 2008.
授業外学習課題	各回の事前課題を前日までに提出したうえで、授業に出席すること。
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。
備考	1つの課題について、180分の授業（90分×2コマ=180分）

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230002
講義名称	理論看護学Ⅱ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 飯高 伸五	文化学科
池添 志乃	看護学科
西村 ユミ	非常勤講師

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1を修得するために特に重要な科目。DP3,4,6を修得するために重要な科目。
授業の概要	さまざまな看護現象を現象学（Phenomenology, Phenomenological Approach）や文化人類学（Cultural anthropology, Ethnographic Method）の立場から概観し、現象学や文化人類学のものの方の見方・考え方、現象学・文化人類学における解釈学の位置づけ、看護現象を理解するための現象学的アプローチやエスノグラフィの手法、看護研究の方法論としての現象学的アプローチやエスノグラフィの手法について学習する。さらに哲学的な基盤の異なる質的研究方法における解釈の問題や人間のとらえ方、看護現象へのアプローチや“知”の産出に関する問題を検討し、看護における現象学や文化人類学の影響や現象学や文化人類学に関する方法的課題を探究する。
達成目標（達成水準）	1) 科学と看護ケアとの関係について説明できる。 2) 実証主義的立場と解釈的立場の違いが看護ケアに及ぼす影響について説明できる。 3) 哲学的基盤と看護現象へのアプローチとの関係が説明できる。 4) 現象学・現象学的アプローチと質的研究方法についての課題・論点が説明できる。 5) 文化人類学的な研究方法と質的研究方法について課題・論点が説明できる。 6) 看護現象と解釈との関係について説明できる。

授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	文化人類学とエスノグラフィの方法1（講義）	飯高
第2回	文化人類学とエスノグラフィの方法2（講義）	飯高
第3回	エスノグラフィで看護現象をどう理解するか1（受講生の発表）	飯高
第4回	エスノグラフィで看護現象をどう理解するか2（受講生の発表）	飯高
第5回	エスノグラフィで看護現象をどう理解するか3（ディスカッション）	飯高
第6回	実験室のエスノグラフィを読む1（講義）	飯高
第7回	実験室のエスノグラフィを読む2（講義）	飯高
第8回	まとめとレポートの作成	飯高

第9回	看護における科学とは何か	西村
第10回	実証主義的立場と解釈的立場、説明と理解	西村
第11回	現象学が生まれた背景と現象学の特徴	西村
第12回	現象学（Husserl, Heidegger, Merleau-Ponty）	西村
第13回	看護においてなぜ現象学か	西村
第14回	方法としての現象学的アプローチ（研究例）	西村
第15回	現象学的研究方法を用いた文献のCritique①（学生のpresentation）	西村
第16回	現象学的研究方法を用いた文献のCritique②（学生のpresentation）、まとめ	西村

成績評価（基準と方法）	授業への参加度、プレゼンテーション、レポートによって評価する。
教科書・参考書	* 初回の講義で講読文献のリストを提示するほか、授業に応じて参考文献を提示する
授業外学習課題	1-15回 授業で用いる参考資料がある場合は、授業開始前に配信するので、事前学習を行っておくこと。 1-15回 授業終了後、疑問に思ったことは、次回の授業で取り上げ、議論するという循環型の授業展開をするので、授業のふり返りは必ず行っておくこと。
オフィスアワー	対応できる時間帯を設定します
備考	担当教員：飯高伸五先生（高知県立大学文化学部）、西村ユミ先生（東京都立大学）

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230003
講義名称	看護学研究方法Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
田井 雅子	看護学科
◎ 畦地 博子	看護学科

履修における注意点	*事前に指定した文献・資料を予習したうえで、授業に参加してください。
資格・区分等	研究コース必修科目
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5,6を修得するために重要な科目
授業の概要	本授業では、看護学領域で活用されている Advanced Research の主要なアプローチを概観し、看護研究の発展に向けた方法論のあり方を考察する。概念化と操作化のプロセス、測定用具の開発、準実験・実験研究、グラウンデッド・セオリー、アクションリサーチなど、多様な研究方法を取り上げ、その基本的な考え方と手順を学ぶ。さらに、自身の研究領域に関連する研究を整理・分析することで、看護学における研究方法の特徴や課題を明らかにし、今後の研究の方向性を探求する力を養う。
達成目標（達成水準）	1.看護学で活用されているAdvanced Researchについて学ぶ。 2.自らの研究領域の研究を概観や課題を分析する。

授業計画表

回	内容
第1回	コースオリエンテーション
第2回	実態調査研究とクリティーク
第3回	尺度開発（海外尺度の日本版の作成）とクリティーク
第4回	尺度開発（尺度の開発）とクリティーク
第5回	介入研究（客観的指標による評価）とクリティーク
第6回	介入研究（主観的指標の量的化による評価）とクリティーク
第7回	概念分析とクリティーク
第8回	グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた研究とクリティーク
第9回	エスノグラフィーを用いた研究とクリティーク

第10回	アクションリサーチとクリティーク
------	------------------

成績評価（基準と方法）	クラスへの参加度(25%)、プレゼンテーション(25%)、課題レポート（50%）によって総合的に評価する。
教科書・参考書	講義の中で、資料の配布および重要な文献の紹介を適宜行う。
授業外学習課題	別途、資料を配布し、説明します。
オフィスアワー	随時、対応しますが、事前にアポイントメントをとって下さい。
備考	進行などシラバスと若干違うことがありますので必ずコースオリエンテーションに参加してください。

更新日時	2026/04/13 19:07:05
年度	2026
講義コード	63230004
講義名称	看護学研究方法Ⅱ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	オムニバス
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
石川 麻衣	看護学科
◎立木 隆広	看護学科

履修における注意点	高校の確率統計などの基礎的な数学の知識があることを前提として講義等を進める。
授業の概要	看護学を発展させるために、医療・看護・保健などにおける現象を探究する研究方法として疫学及び統計学の基本事項を確認し応用できるように学修する。さらに疫学と統計学の関連を捉え研究を行うときにどのような点に注意すべきかを学ぶ。ここで得たことを用いて、研究論文をより正確に読み解くことができる力と自身の研究を発展させる力の基礎を構築する。
達成目標（達成水準）	1) 疫学の基本事項が身についている 2) 統計学の基本事項が身についている 3) 疫学と統計学の視点を持って研究論文を批判的に吟味できる 4) 研究計画を立てるときに疫学及び統計学の視点から計画を立てることができる

授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	ガイダンス/疫学と統計学	立木
第2回	母集団と標本	立木
第3回	疾病頻度の指標/曝露効果の指標	立木
第4回	研究デザイン	立木
第5回	真値と誤差・確度と精度/バイアスと交絡①	立木
第6回	バイアスと交絡②/因果推論	立木
第7回	尺度・代表値・散布度/母平均	立木
第8回	主な確率分布・分布の区別/要約統計量	立木
第9回	推定と検定	立木
第10回	主な差の検定	立木
第11回	相関と回帰/多変量解析	立木
第12回	効率かつ効果的な論文検索の方法	石川
第13回	レビュー論文を読み解く（システマティックレビュー・スコوپングレビューを中心に）	石川
第14回	地域に還元できる研究を目指して（地域課題の分析と政策形成への応用）	石川

第15回	論文精読	立木 石川
------	------	-------

成績評価（基準と方法）	参加40%、発表・レポート等60%を基準として総合的に評価する。
教科書・参考書	<p>【参考書】</p> <p>1) 疫学 医学的研究と実践のサイエンス (著) Leon Gordis (訳) 木原正博 他 メディカル・サイエンス・インターナショナル</p> <p>2) 医学的研究のデザイン 第5版 - 研究の質を高める疫学的アプローチ - (著) Stephen B Hulley, et.al (訳) 木原雅子 他 メディカル・サイエンス・インターナショナル</p> <p>3) ハーバード大学講義テキスト 生物統計学入門 (著) Marcello Pagano, et.al (訳) 竹内正弘 丸善出版</p>
授業外学習課題	<p>事前学習としてこれまで学んできた疫学と統計学を復習すること。</p> <p>発表を行う場合は、資料作成をすること。</p> <p>発表担当以外の単元も予習・復習をすること。</p> <p>レポートが課せられた場合、作成し提出すること。</p>
オフィスアワー	基本的には講義修了後。これ以外は、事前に担当教員にメールにてアポイントメントをとってください。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230005
講義名称	看護倫理学
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
大川 宣容	看護学科
◎ 瓜生 浩子	看護学科

資格・区分等	専攻共通科目:選択
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3を修得するために特に重要な科目。DP1,DP2を修得するために重要な科目。
授業の概要	科学の発達と倫理について概観し、看護科学者としての倫理的基盤を養い、看護研究にかかわる様々な倫理的課題を明確にし、その対応方法を開発する。 看護学の発展に向けて、自らの研究領域の研究にかかわる倫理的課題を認識・分析し、解決に向けて対応できる能力を修得する。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理的判断基準や倫理的判断の基盤となる知識を説明することができる。 2. 看護研究に関わる倫理的課題の様々な解決方法を身につけることができる。 3. 博士論文の研究協力者に対する倫理的課題解決の方法を実施することができる。

授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	Introduction 看護科学者としての倫理的視点の必要性 学生のこれまでに研究に関する倫理的課題 学生の専門領域における研究倫理に関する課題	瓜生・大川
第2回	研究倫理の基礎 倫理の歴史の変遷 科学の発展と倫理 研究者の倫理 研究倫理に関する指針	瓜生・大川
第3回	倫理学の基礎 規範倫理：倫理原則・概念 医療・福祉分野に関わる倫理 生命倫理・医療倫理・臨床倫理・職業倫理	瓜生・大川
第4回	倫理学の基礎 規範倫理：倫理原則・概念 医療・福祉分野に関わる倫理 生命倫理・医療倫理・臨床倫理・職業倫理	瓜生・大川
第5回	応用倫理 先端科学技術と倫理 生命倫理、環境倫理、情報倫理など 人権と倫理、法と倫理	瓜生・大川

第6回	応用倫理 先端科学技術と倫理 生命倫理、環境倫理、情報倫理など 人権と倫理、法と倫理	瓜生・大川
第7回	看護倫理 看護倫理の基礎 医学・看護学における倫理の歴史 看護職の倫理的責任 看護実践・看護教育に関わる倫理的課題	瓜生・大川
第8回	看護倫理 看護倫理の基礎 医学・看護学における倫理の歴史 看護職の倫理的責任 看護実践・看護教育に関わる倫理的課題	瓜生・大川
第9回	看護研究に関わる倫理的課題Ⅰ 研究デザインと倫理的課題 研究のプロセスと倫理的課題 研究者のジレンマと対応の検討	瓜生・大川
第10回	看護研究に関わる倫理的課題Ⅰ 研究デザインと倫理的課題 研究のプロセスと倫理的課題 研究者のジレンマと対応の検討	瓜生・大川
第11回	看護研究に関わる倫理的課題Ⅱ 研究倫理審査体制 研究倫理審査委員会 対象者および多職種・他職種との協働における倫理課題と調整方法の検討 自分の専門領域の倫理的課題と解決方法の考案	瓜生・大川
第12回	看護研究に関わる倫理的課題Ⅱ 研究倫理審査体制 研究倫理審査委員会 対象者および多職種・他職種との協働における倫理課題と調整方法の検討 自分の専門領域の倫理的課題と解決方法の考案	瓜生・大川
第13回	研究発表に関わる倫理的課題 研究データの取り扱い、所有権、IT化に伴う情報管理、Authorship・ミスコンダクトと 責任所在、同僚評価など	瓜生・大川
第14回	研究発表に関わる倫理的課題 研究データの取り扱い、所有権、IT化に伴う情報管理、Authorship・ミスコンダクトと 責任所在、同僚評価など	瓜生・大川
第15回	医療倫理教育 教育・研究機関における倫理教育 臨床・実践機関における倫理教育	瓜生・大川
第16回	医療倫理教育 教育・研究機関における倫理教育 臨床・実践機関における倫理教育	瓜生・大川

成績評価（基準と方法）	目標1、目標2、目標3について、クラスへの貢献度（30%）、プレゼンテーションの資料・内容（70%）で総合的に評価する。
教科書・参考書	適宜、参考文献、参考資料・を提示する。 ・ Denise F.Polit&Cheryl Tatano Beck:Nursing Research, 8thedition, chapter7 Generating Research Evidence Ethically, 2008. ・ Nicholas H.Steneck著,山崎茂明訳:ORI研究倫理入門-責任ある科学者になるために,丸善, 2005. ・ 中山健夫編集：臨床研究と疫学研究のための国際ルール集,ライフサイエンス出版,2008 ・ 日本学会会議:声明 科学者の行動規範-改訂版- 2013.1.25. ・ 日本看護科学学会「看護研究上のモラルに関する提言」 ・ 日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会：科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得-.2014
授業外学習課題	各回の事前課題を前日までに提出したうえで、授業に出席すること。 自らの研究領域の中から、研究に関する倫理的課題をみつけ、社会的あるいは方法論的現状を分析し、ディスカッションを通して解決策を検討する。
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。
備考	1つの課題について、180分の授業（90分×2コマ＝180分）

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230007
講義名称	国際看護学
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
池添 志乃	看護学科
◎ 大田 えりか	非常勤講師

資格・区分等	博士後期課程
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2を修得するために特に重要な科目。DP4,5を修得するために重要な科目。
授業の概要	国際的文化的視点を踏まえ、看護学の変遷と現状を分析し、健康生活の促進に関する研究課題を探索し、その課題の前提を吟味する。その上で人々の健康課題等について国を越え世界的レベルで考え研究すると共に、特定の国の文化を踏まえて、健康生活促進へのケアシステム構築とその成果に関する方法的課題を探究する。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none">政策的、教育的な視点からグローバルヘルスの現状と課題、その背景を説明できる。グローバルヘルスに関わる課題解決のための取り組みについて、エビデンスに基づき検討することができる。1, 2をふまえて、政策的な視点や看護教育の視点から国際看護学を確立するための方略を提案することができる。研究疑問PICOSを立案できる。系統的レビューの方法を理解する。ランダム化比較試験の文献の批判的吟味ができる。メタ解析を実施、解釈することができる。系統的レビューのプロトコルを作成することができる。

授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	グローバルヘルスの現状と課題、その背景	近藤
第2回	グローバルヘルスの課題解決に向けた取り組みの検討	近藤
第3回	国際看護学の確立のための方略の提案（プレゼンテーションとディスカッション①）	近藤
第4回	国際看護学の確立のための方略の提案（プレゼンテーションとディスカッション②）	近藤
第5回	PICOSを立ててみよう	大田
第6回	スクリーニング演習・Rayyanを用いてリスクオブバイアスの評価と演習	大田
第7回	データ抽出・演習 メタ解析の読み方・演習	大田
第8回	国際的に用いられているGRADEの評価・演習	大田

成績評価（基準と方法）	授業への参加度、プレゼンテーション、レポート等により評価する
教科書・参考書	講義の初回到講読文献や参考資料を提示する

授業外学習課題	各回、事前および事後課題を適宜提示する。
オフィスアワー	対応できる時間を設定する。
備考	担当教員：大田えりか先生（聖路加国際大学）、近藤麻理先生（関西医科大学）

更新日時	2026/04/05 4:31:00
年度	2026
講義コード	63230008
講義名称	医学研究方法論
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	
必修区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 島本 亮	看護学科

資格・区分等	本学看護学研究科博士後期課程の履修者に限る。生命科学実験方法を選択して研究を進める学生が対象。
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4を修得するために特に重要な科目。DP2,6を修得するために重要な科目。
授業の概要	おもに量的な研究手法をとる医学研究の方法を紹介する。講義では、生化学的、細胞生物学的、分子生物学的および生理学的研究法を解説する。本科目を修得することで、学生の研究に医学的な視点を入れることができたり、学際的な研究を進めることができるようになる。併せて英文の医学論文を批判的に読む能力を修得する。看護学教育および医学研究方法論領域の教育の動向と課題を分析・考察し、医学研究方法論をさらに発展させていくための新たな教育内容や方法を考案する。
達成目標（達成水準）	1. 臆することなく実験医学領域の英語文献が読める。 2. 生命科学領域の研究方法の意味を理解し、研究結果を批判的に解釈できる。 3. 看護学教育、医学研究方法論領域における教育の動向と課題を多角的に分析・考察できる。 4. 医学研究方法論領域の教育の質向上をさせる方策を考案できる。

授業計画表

回	内容
第1回	分子生物学の基礎
第2回	生命科学系論文の構成
第3回	細胞分離法および細胞培養法
第4回	RNA研究法
第5回	プラズミドの調整および培養細胞への遺伝子導入
第6回	DNA塩基配列決定法
第7回	ウェスタンブロット法
第8回	フローサイトメトリー
第9回	ELISA法および蛍光抗体法
第10回	免疫組織化学
第11回	医学研究方法論における教育の動向と課題の多角的分析・考察①
第12回	医学研究方法論における教育の動向と課題の多角的分析・考察②

第13回	関心領域の看護教育内容・方法の検討①
第14回	関心領域の看護教育内容・方法の検討②
第15回	関心領域の看護教育内容・方法の開発

成績評価（基準と方法）	試験は実施しないが、看護学研究科CPにあげた複数の観点から、講義中の質疑の状態で評価する（100%）。
教科書・参考書	文献の紹介、必要資料の配布は適宜行う。
授業外学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義開始日に貸与する参考図書の当該部分を学習する。 2 講義開始日に貸与する参考図書の当該部分を学習する。 3 講義開始日に貸与する参考図書の当該部分を学習する。 4 講義開始日に貸与する参考図書の当該部分を学習する。 5 講義開始日に貸与する参考図書の当該部分を学習する。 6 講義開始日に貸与する参考図書の当該部分を学習する。 7 講義開始日に貸与する参考図書の当該部分を学習する。 8 講義開始日に貸与する参考図書の当該部分を学習する。 9 講義開始日に貸与する参考図書の当該部分を学習する。 10 講義開始日に貸与する参考図書の当該部分を学習する。 11 講義開始日に貸与する参考図書の当該部分を学習する。 12 講義開始日に貸与する参考図書の当該部分を学習する。 13 講義開始日に貸与する参考図書の当該部分を学習する。 14 講義開始日に貸与する参考図書の当該部分を学習する。 15 講義開始日に貸与する参考図書の当該部分を学習する。
オフィスアワー	<p>C104（内線3104） jj6jdv@cc.u-kochi.ac.jp 在室時は適宜対応致します。 事前にメール等でappointmentを取得して頂く方がbetterです。</p>

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230009
講義名称	インディペンデントスタディ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	1.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
池添 志乃	看護学科
瓜生 浩子	看護学科
田井 雅子	看護学科
久保田 聡美	看護学科
◎ 畦地 博子	看護学科
青木 早苗	看護学科
木下 真里	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3,6を修得するために重要な科目
授業の概要	学生が、自らの関心領域の看護現象に関して、文献検討、フィールドワーク等の方法を用いて情報を収集、分析することを通して、その領域について理解を深めるとともに、看護学の課題を見出すことを目的とする。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none">取りあげた自己の関心領域における既存の知識を系統的に探究することができる。 (文献検索、文献クリティークなど)取りあげた自己の関心領域における看護の現状と課題について、さまざまな方法を用いて情報収集を行い、それらを分析し統合することができる。自己の関心領域における看護の現状と課題を整理し、その中から看護学の課題を見出すことができる。

授業計画表

回	内容
第1回	教員と相談しながら、学生の関心領域を明らかにし、科目の展開方法を計画する
第2回	取りあげた領域に関する情報収集 文献検討により、課題を明確にする
第3回	課題に関する情報収集と分析のための方法論を検討し、今後の進め方についての計画を立案する
第4回	計画に基づき、課題に関する情報収集を行う
第5回	収集した情報の一次分析を行い、さらに情報収集が必要な内容を明らかにする
第6回	課題に関連する文献等と比較検討しながら、収集した情報を分析する
第7回	収集した情報について、分析を深め、まとめる

第8回	<p>まとめ 他の学生と共有し、ディスカッションする 事後の課題として、まとめのレポートを提出する</p> <p>* 探究する課題の設定、そのための方法論の検討について、教員と適宜ディスカッションしながら進めていく。 * 4～7回の展開方法については、フィールドワークや課題に関連する専門職等へのインタビューなど、学生が自ら計画を立て、実施する。</p>
-----	---

成績評価（基準と方法）	全過程における課題への取り組み（30%）、プレゼンテーション（40%）、レポートの内容（30%）に基づき、総合的に評価する。
教科書・参考書	文献の紹介、必要資料の配布は、適宜行う
授業外学習課題	<p>事前学習課題は、講義進行に合わせて、講義中に適宜提示する 事後の課題として、まとめのレポートを提出する</p>
オフィスアワー	随時。できるだけ事前にメールでアポイントメントを取ってください。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230010
講義名称	プロフェッショナルライティング
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必修区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 木下 真里	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4を修得するために特に重要な科目。DP2,5を修得するために重要な科目
授業の概要	<p>生成AIの普及、国内学術雑誌のオンライン化（国際化）、国際学術雑誌の相次ぐ創刊に伴い、英語での論文発表機会は格段に増えた。一方で、評価の高い学術雑誌にアクセプトされる論文は、単に英語の正確さだけでなく、データの質、論理性、倫理に関して基準を満たしている必要がある。また、学術的な価値を高めるために国際・学際的共同研究を実施する場合に、守るべきルールや、マナーは依然として存在する。</p> <p>このコースでは、受講生が目的に合わせて、英語論文や研究プロポーザルを作成してみることにより、国際、学際共同研究に対する理解および科学的な看護研究について学びを深める。授業は日本語を用いて行い、研究倫理、文献引用の仕方など、受講者の確実な理解を促す。後半はゼミナール形式で行い、受講者が自ら選んだ英文の作成に取り組む。</p>
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none">1) 日本語と英語の論理構造の違いについて理解する2) 結論を（和文または英文で）明確に記述することができる。3) 結論の根拠となるデータを（和文または英文で）明確に記述することができる。4) 現在計画中または実施中の博士論文研究を見直し、

授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	英文資料のいろいろ、国際共同研究、倫理規定について
第3回	データから結論を導き出す。
第4回	結論の根拠を明確に記述する。
第5回	論文種類の選択
第6回	投稿規定に合わせた編集、文献の適切な引用
第7回	オンデマンド・コンサルテーション
第8回	オンデマンド・コンサルテーション

成績評価（基準と方法）	授業への参加・貢献度（40%）、最終成果物(60%)を基に、総合的に評価する。
教科書・参考書	必要に応じて提示する。
授業外学習課題	第1回～第8回 その都度提示する。
オフィスアワー	Walk-in日時は適宜連絡する。メールでの事前予約を推奨。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230011
講義名称	共創看護学Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 畦地 博子	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3を修得するために特に重要な科目。DP1,5を修得するために重要な科目。
授業の概要	基礎看護学領域で活用されている理論や概念について学修し、それぞれの理論や概念の特徴や限界を分析する。研究の動向、実践の動向について分析し、基礎看護学領域での理論開発の可能性を考察する。また、療養者や家族、在宅ケアシステムを対象とした研究方法を学修し、研究方法の特徴と限界を考察し、新たな研究方法を開発する能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1. 基礎看護学領域における国内外の研究・教育・実践の動向を多角的に分析し、研究課題を見いだすことができる。 2. 研究課題として見いだした看護現象に適した理論、概念の文献的考察ができる。 3. 研究課題に即した、研究の枠組み、方法論を選択することができる。

授業計画表

回	内容
第1回	基礎看護学における我が国の研究の動向に関する文献の多角的分析
第2回	基礎看護学における海外の研究の動向に関する文献の多角的分析
第3回	基礎看護学における我が国の教育・実践の動向に関する文献の多角的分析
第4回	基礎看護学における海外の教育・実践の動向に関する文献の多角的分析
第5回	研究課題に関連した我が国の研究成果の検討
第6回	研究課題に関連した海外の研究成果の検討
第7回	研究課題の中心概念の文献的考察1：我が国における研究の概観
第8回	研究課題の中心概念の文献的考察2：我が国における研究成果の検討に基づく概念分析
第9回	研究課題の中心概念の文献的考察3：海外における研究の概観
第10回	研究課題の中心概念の文献的考察4：海外における研究成果の検討に基づく概念分析
第11回	研究課題に関連する他の学問分野、文献を用いた考察1：他の学問領域における研究課題に関する研究の概観
第12回	研究課題に関連する他の学問分野、文献を用いた考察2：他の学問領域の文献検討をふまえた本研究課題の位置づけの検討
第13回	研究課題の明確化と研究方法論の理論的基盤の検討
第14回	研究方法論の理論的基盤の決定
第15回	研究計画全体の検討

成績評価（基準と方法）	クラスへの参加度、貢献度、プレゼンテーション（30%）、提出物の内容（70%）から評価する
教科書・参考書	適宜資料を配布する
授業外学習課題	事前学習課題、事後学習課題は、講義進行に合わせ、講義中に適宜提示する
オフィスアワー	適宜

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230012
講義名称	共創看護学Ⅱ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 畦地 博子	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP6を修得するために特に重要な科目。DP2,4を修得するために重要な科目。
授業の概要	看護学領域における理論やエビデンス活用の動向を分析し、現在の課題を明らかにする。また、さまざまな看護実践において活用できる理論やエビデンスの構築を行う能力を修得する。理論・倫理・技術・研究などの看護学教育の動向と課題を分析・考察し、看護学をさらに発展させていくための新たな教育内容や方法を考案する。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学領域における看護理論やエビデンスの活用について多角的に分析・考察することができる。 2. 新たな理論やエビデンスを構築していく方法について説明することができる。 3. 理論・倫理・技術・研究などの看護学教育の動向と課題を多角的に分析・考察することができる。 4. 理論・倫理・技術・研究などの看護学領域の教育の質を向上させる方策を提案することができる。

授業計画表

回	内容
第1回	関心領域の看護理論の動向に関する分析
第2回	関心領域のエビデンスの動向に関する分析
第3回	看護学領域における理論の多角的分析と考察1：国内外における理論の発展過程
第4回	看護学領域における理論の多角的分析と考察2：国内外における理論の実践・研究への活用と有用性・限界
第5回	看護学領域における中範囲理論の多角的分析と考察1：国内外における中範囲理論の発展過程
第6回	看護学領域における中範囲理論の多角的分析と考察2：国内外における中範囲理論の実践・研究への活用と有用性・限界
第7回	看護学領域における状況特定理論の多角的分析と考察1：国内外における状況特定理論の発展過程
第8回	看護学領域における状況特定理論の多角的分析と考察2：国内外における状況特定理論の実践・研究への活用と有用性・限界
第9回	第9回 看護学領域における看護介入方法のエビデンスの検索1：海外の研究の動向の分析
第10回	看護学領域における看護介入方法のエビデンスの検索2：我が国の研究の動向の分析
第11回	理論・倫理・技術・研究など看護学領域における教育の動向と課題の多角的分析と考察1
第12回	理論・倫理・技術・研究など看護学領域における教育の動向と課題の多角的分析と考察2
第13回	関心領域の看護教育内容・方法の検討1
第14回	関心領域の看護教育内容・方法の検討2
第15回	関心領域の看護教育内容・方法の開発

成績評価（基準と方法）	クラスへの参加度、貢献度、プレゼンテーション（30%）、提出物の内容（70%）から評価する
教科書・参考書	適宜資料を配布する
授業外学習課題	事前学習課題、事後学習課題は、講義進行に合わせ、講義中に適宜提示する
オフィスアワー	適宜

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230013
講義名称	がん看護学Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 青木 早苗	看護学科

資格・区分等	専攻専門科目:選択
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3を修得するために特に重要な科目。DP1,DP5を修得するために重要な科目。
授業の概要	がん看護学領域で活用されている理論や概念について学修し、それぞれの理論や概念の特徴や限界を分析する。研究の動向、実践の動向について分析し、がん看護学領域での理論開発の可能性を考察する。また、がん患者やその家族を対象とした研究方法を学修し、研究方法の特徴と限界を考察して新たな研究方法を開発する能力を修得する。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん看護学領域における国内外の研究・教育・実践の動向を多角的に分析し、研究課題を見出すことができる。 2. 研究課題として見出した看護現象に適した理論、概念の文献的考察をすることができる。 3. 研究課題に即した、研究の枠組み、方法論を検討することができる。

授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	がん看護学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析（1）	青木
第2回	がん看護学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析（1）	青木
第3回	がん看護学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析（2）	青木
第4回	がん看護学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析（2）	青木
第5回	研究課題に関連した国内外の研究成果の検討	青木
第6回	研究課題に関連した国内外の研究成果の検討	青木
第7回	研究課題の中心概念の文献的考察（1）	青木
第8回	研究課題の中心概念の文献的考察（1）	青木
第9回	研究課題の中心概念の文献的考察（2）	青木
第10回	研究課題の中心概念の文献的考察（2）	青木
第11回	研究課題を解決するための方策を広範な学問分野・文献などから検討	青木
第12回	研究課題を解決するための方策を広範な学問分野・文献などから検討	青木
第13回	研究方法論の理論的基盤の検討	青木
第14回	研究方法論の理論的基盤の検討	青木
第15回	研究計画全体の検討	青木

成績評価（基準と方法）	目標1、目標2、目標3について、クラスへの事前準備（10%）、プレゼンテーションの内容（30%）、研究計画の内容（60%）を総合的に評価する。
教科書・参考書	適宜、資料を配布する。
授業外学習課題	各回のテーマについての事前課題を前日までに提出したうえで、授業に出席すること。
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。
備考	1つの課題について、180分の授業（90分×2コマ=180分）

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230014
講義名称	がん看護学Ⅱ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 青木 早苗	看護学科

資格・区分等	専攻専門科目:選択
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP6を修得するために特に重要な科目。DP2,DP4を修得するために重要な科目。
授業の概要	<p>がん看護学領域で開発されているエビデンスに基づく看護介入方法を分析・考察する。研究の動向、実践の動向について分析し、新たな看護介入方法を開発する可能性を考察する。また、がんの軌跡や病期に沿ってがん患者やその家族がより健康に生活していくための新たな看護介入方法を開発する能力を修得する。</p> <p>さまざまな状況にあるがん患者やその家族を取りあげ、既存の研究成果や理論に基づき、がんの軌跡や病期に沿ってより健康に生活していくための新たな看護介入方法を開発する能力を修得する。</p> <p>看護学教育およびがん看護学領域の教育の動向と課題を分析・考察し、がん看護学をさらに発展させていくための新たな教育内容や方法を考案する。</p>
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん看護学領域にけるエビデンスに基づく看護介入方法を多角的に分析・考察することができる。 2. 既存の研究成果や理論に基づき、新たな看護介入方法を考案することができる。 3. 看護学教育、がん看護学領域における教育の動向と課題を多角的に分析・考察することができる。 4. がん看護学領域の教育の質向上のための方策を考案することができる。

授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	がん看護学の関心領域の実践・研究の動向	青木
第2回	がん看護学の関心領域の実践・研究の動向	青木
第3回	がん看護学領域における諸概念・理論・モデルの多角的分析・考察	青木
第4回	がん看護学領域における諸概念・理論・モデルの多角的分析・考察	青木
第5回	がん看護学領域における看護介入方法のエビデンス検索・構築	青木
第6回	がん看護学領域における看護介入方法のエビデンス検索・構築	青木
第7回	関心領域の看護介入方法の検討	青木
第8回	関心領域の看護介入方法の検討	青木
第9回	関心領域の看護介入方法の開発	青木
第10回	関心領域の看護介入方法の開発	青木
第11回	がん看護学領域における教育の動向と課題の多角的分析・考察	青木
第12回	がん看護学領域における教育の動向と課題の多角的分析・考察	青木

第13回	関心領域の看護教育内容・方法の検討	青木
第14回	関心領域の看護教育内容・方法の検討	青木
第15回	関心領域の看護教育内容・方法の開発	青木

成績評価（基準と方法）	目標1, 目標2, 目標3について、プレゼンテーションの内容（20%）、および学修課題（80%）を総合的に評価する。
教科書・参考書	適宜、資料を配布する。
授業外学習課題	各回のテーマについての事前課題を前日までに提出したうえで、授業に出席すること。
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。
備考	1つの課題について、180分の授業（90分×2コマ=180分）

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230015
講義名称	成人看護学Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
大川 宣容	看護学科
◎ 内田 雅子	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3を修得するために特に重要な科目。DP1,5を修得するために重要な科目。
授業の概要	成人看護学領域で活用される理論と概念について、研究・教育・実践への適用における利点・限界・課題を明らかにする。成人看護学領域の研究・教育・実践の動向を分析し、研究課題を明らかにする。研究課題の解決に有益な方法論とアウトカムについて探求する。
達成目標（達成水準）	1.成人看護学領域で活用される主要な理論・概念の学問的基盤や社会的背景について説明する。 2.主要な理論・概念の利点・限界・課題について分析し、研究・教育・実践への適用可能性について評価する。 3.成人看護学領域の研究・教育・実践の動向を分析し、研究課題を明らかにする。 4.研究課題の解決に有用な理論・概念を用いて概念枠組みの構築、中範囲理論の生成、新たな研究方法の可能性などについて検討する。

授業計画表

回	内容
第1回	コースガイド
第2回	成人看護学領域で活用される主要な理論と概念：回復期・慢性期・終末期
第3回	成人看護学領域で活用される主要な理論と概念：急性期・クリティカルケア期
第4回	成人看護学領域で活用される主要な概念の分析・評価
第5回	成人看護学領域で活用される主要な理論の分析・評価
第6回	成人看護学領域における研究の動向
第7回	成人看護学領域における研究課題の明確化
第8回	成人看護学領域における実践の動向と研究課題の明確化
第9回	成人看護学領域における教育の動向と研究課題の明確化
第10回	研究課題をとらえる理論的基盤、及び前提・世界観の明確化：シンボリック相互作用論
第11回	研究課題をとらえる理論的基盤、及び前提・世界観の明確化：現象学
第12回	研究課題をとらえる理論的基盤、及び前提・世界観の明確化：民俗学
第13回	研究課題の解決に有益な方法論とアウトカム：実証主義
第14回	研究課題の解決に有益な方法論とアウトカム：社会構成主義
第15回	研究課題の解決に有益な方法論とアウトカム：参加型

成績評価（基準と方法）	達成目標に沿って、クラス参加状況（40%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）などにより総合的に評価する。
教科書・参考書	教科書 適宜、資料を配布する。
授業外学習課題	講義の目的・目標に沿って、関心領域における自分なりの目的・目標を設定し、自己の知識を体系化するよう探求を進めて下さい。 講義でディスカッションができるよう、文献・資料を批判的に分析し、関心領域における課題や問いを明確化しておいて下さい。
オフィスアワー	随時、対応しますが、事前にアポイントメントをとって下さい。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230016
講義名称	成人看護学Ⅱ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
大川 宣容	看護学科
◎ 内田 雅子	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP6を修得するために特に重要な科目。DP2,4を修得するために重要な科目。
授業の概要	看護介入方法の開発と評価の方法論について学修する。成人看護学領域で開発された看護介入方法について、適用する看護現象の課題分析を踏まえて多角的に分析・評価する。成人看護学領域の実践・教育の質向上につながる新たな看護介入方法の開発と評価システムについて検討する。
達成目標（達成水準）	1.成人看護学領域における看護介入方法の開発と評価について多角的に分析・評価する。 2.先行研究結果のエビデンス分析を踏まえて新たな看護介入方法の開発と評価システムについて検討する。

授業計画表

回	内容
第1回	コースガイド
第2回	看護介入方法の開発と評価の方法論：評価研究法
第3回	看護介入方法の開発と評価の方法論：既存の看護モデル
第4回	看護介入方法の開発と評価の方法論：国内の最新文献
第5回	看護介入方法の開発と評価の方法論：海外の最新文献
第6回	関心のある課題解決に向けて開発された看護介入方法の動向：国内文献
第7回	関心のある課題解決に向けて開発された看護介入方法の動向：海外文献
第8回	関心のある課題解決に向けて開発された看護介入方法の動向と分析・評価：国内の看護介入法
第9回	関心のある課題解決に向けて開発された看護介入方法の動向と分析・評価：海外の看護介入法
第10回	看護介入方法の開発におけるアウトカム、持続可能性、波及効果、経済効果などの評価システム：方法論
第11回	看護介入方法の開発におけるアウトカム指標の評価
第12回	看護介入方法の開発における持続可能性、波及効果、経済効果の評価
第13回	新たな看護介入方法の開発と評価システム：課題分析の枠組み
第14回	新たな看護介入方法の開発と評価システム：介入方法の枠組みとプロトコール
第15回	新たな看護介入方法の開発と評価システム：評価の枠組みと具体的指標

成績評価（基準と方法）	達成目標に沿って、クラス参加状況（40%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）などにより総合的に評価する。
-------------	--

教科書・参考書	適宜、資料を配布する。
授業外学習課題	講義の目的・目標に沿って、関心領域における自分なりの目的・目標を設定し、自己の知識を体系化するよう探求を進めて下さい。 講義でディスカッションができるよう、文献・資料を批判的に分析し、関心領域における課題や問いを明確化しておいて下さい。
オフィスアワー	随時、対応しますが、事前予約を推奨いたします。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230017
講義名称	小児看護学Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 高谷 恭子	看護学科

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230018
講義名称	小児看護学II
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 高谷 恭子	看護学科

更新日時	2026/04/05 19:09:05
年度	2026
講義コード	63230019
講義名称	老人看護学Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 竹崎 久美子	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3を修得するために特に重要な科目。DP1,5を修得するために重要な科目。
授業の概要	老年学と老人看護学における諸理論を学修し、様々な健康レベルにある老年期を生きる人々の「健康」と「生活」と「安寧」を支援する看護学について考究する。特に諸制度の変化をとらえた高齢者の新たなケアシステムを構築し、成果を研究的に蓄積・発展させる研究手法の開発を通して老人看護学の果たしうる社会的役割について可視化し、政策提言できる能力を修得する。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年学で用いられる主要な理論や概念について文献検討を深め、論じることができる。 2. 老人看護学領域において活用されている理論や概念、既存の研究を概観し、老人看護の立場から、探究すべき現象・社会問題、研究課題について、明らかにする。 3. 高齢者とその家族に関する健康課題について、関心を持った理論・概念を用いて論じ、研究的に現状を分析する方法について論じることができる。

授業計画表

回	内容
第1回	老年学において用いられる主要な理論や概念に関する、国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析 1：発達理論と老年期
第2回	老年学において用いられる主要な理論や概念に関する、国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析 2：QOL、健康など
第3回	老年学において用いられる主要な理論や概念に関する、国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析 3：生きがい、サクセスフル・エイジングなど
第4回	老年学における主要な理論や概念に関する現状と課題に対する看護学の果たすべき役割の探求
第5回	老人看護学領域において活用される理論、概念に関する、国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析 1：ストレングスモデル、ICFなど
第6回	老人看護学領域において活用される理論、概念に関する、国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析 2：パーソンセンタードケア、バリデーション、ユマニテュード、など
第7回	老人看護学領域において活用される理論、概念に関する、国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析 3：高齢者総合的機能評価、MDS・MDS-HC、など
第8回	老人看護学領域において活用される理論や概念に関する現状と今後の発展に向けた課題に関する検討
第9回	老人看護学領域において活用される研究方法とその研究成果の多角的分析と、課題解決のための研究方法の探究 1：ライフレビュー法・ライフヒストリー法など
第10回	老人看護学領域において活用される研究方法とその研究成果の多角的分析と、課題解決のための研究方法の探究 2：高齢者を対象とした様々なスケールについて

第11回	老人看護学領域において活用される研究方法とその研究成果の多角的分析と、課題解決のための研究方法の探究 3：老人看護学領域における介入研究の現状と課題
第12回	老人看護学領域における研究の現状を踏まえた、今後の課題と発展させるべき研究テーマの検討
第13回	自らが関心ある高齢者の健康課題・現象に関する、既存研究の概観と、その動向に関する探求
第14回	自らが関心ある高齢者の健康課題・現象に関する課題の明確化と、研究的取り組みの方略の検討
第15回	総括

成績評価（基準と方法）	クラスへの参加度および貢献度(40%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(30%)の内容などによって、総合的に評価する
教科書・参考書	適宜、参考資料等を配布する。
授業外学習課題	1～3、5～7、9～11回：各自関心のある理論・概念を選定し、その意味する現象や事象について、構成要素について、また過去の研究的蓄積については看護学と他領域における研究成果について、文献で調べてくる。 4、8、12回：各自がレポートした内容を踏まえ、現状と課題について分析してくる。 レポートは事前に、パスワードをかけて教員・受講生全員に配信すること。
オフィスアワー	講義前後で、適宜学生と時間調整する。

更新日時	2026/04/05 19:13:05
年度	2026
講義コード	63230020
講義名称	老人看護学Ⅱ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 竹崎 久美子	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP6を修得するために特に重要な科目。DP2,4を修得するために重要な科目。
授業の概要	老人看護領域で活用されている理論や、既存の研究成果、実践の動向を分析し、高齢者及び家族の健康問題の解決を導く介入方法の可能性を考察する。さらに、高齢者と家族が老いにより生じる様々な問題や課題に向き合える、新たな看護介入方法を開発するための能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1. 現在国内で高齢者やその家族が解決すべき健康課題について探究し、論ずることができる。 2. 介入の評価や成果を研究的に明らかにする方略について、論ずることができる。 3. 高齢者やその家族の健康課題を解決するための介入と、それを研究的に評価する方略について、具体的に提案することができる。

授業計画表

回	内容
第1回	老人看護学における看護実践について関心のある国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析
第2回	老人看護学における看護実践について関心のある国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析
第3回	老人看護学における看護実践について関心のある国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析
第4回	老人看護学における看護実践について関心のある国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析
第5回	老人看護における実践介入やケア評価に関する国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析
第6回	老人看護における実践介入やケア評価に関する国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析
第7回	老人看護における実践介入やケア評価に関する国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析
第8回	老人看護における実践介入やケア評価に関する国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析
第9回	老人看護学領域における国内外の動向・課題・展望に関する探求
第10回	老人看護学領域における国内外の動向・課題・展望に関する探求
第11回	自らが関心のある高齢者の健康課題に関する介入とその評価を研究的に蓄積する方略に関する探究
第12回	自らが関心のある高齢者の健康課題に関する介入とその評価を研究的に蓄積する方略に関する探究
第13回	自らが関心のある高齢者の健康課題に関する介入とその評価を研究的に蓄積する方略に関する探究
第14回	自らが関心のある高齢者の健康課題に関する介入とその評価を研究的に蓄積する方略に関する探究
第15回	総括

成績評価（基準と方法）	クラスへの参加度および貢献度(40%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(30%)の内容などによって、総合的に評価する。
-------------	---

教科書・参考書	適宜、参考資料等を配布する。
授業外学習課題	<p>1～4回 老人看護学における看護実践について関心のある国内外の研究・教育・実践の文献を検索・検討しまとめる。</p> <p>5～8回 老人看護における実践介入やケア評価に関する国内外の研究・教育・実践の文献を検索・検討しシステマティック・レビューを行う。</p> <p>9～10回 老人看護学領域における国内外の動向・課題・展望に関する文献を検索・検討し、自らの研究課題について探求する。</p> <p>11～14回 自らが関心のある高齢者の健康課題に関する介入とその評価を研究的に蓄積する方略について、異なる方法論を用いてまとめる。</p>
オフィスアワー	原則として、講義日の前日または当日に調整を行い、学生と教員で日程調整を行う。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230021
講義名称	精神看護学Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 田井 雅子	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3を修得するために特に重要な科目。DP1,5を修得するために重要な科目。
授業の概要	人々が健康的な生活を過ごすためには、精神の健康が重要な要素である。精神看護学領域で活用されている理論や概念を学修し、それぞれの理論や概念の特徴や限界を分析する。研究の動向、実践の動向について分析し、精神看護学領域での理論開発の可能性を考察する。また、精神疾患をもつ人やその家族を対象とした研究方法について学習し、研究方法の特徴と限界を考察し、新たな研究方法を開発する能力を修得する。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"> 1.精神看護学領域における国内外の研究・教育・実践の動向を多角的に分析し、研究課題を見出す。 2.研究課題として見出した現象に適した理論、概念の文献的考察ができる。 3.研究課題に即した研究の枠組み、方法論の検討ができる。

授業計画表

回	内容
第1回	精神看護学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析（1）
第2回	精神看護学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析（2）
第3回	精神看護学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析（3）
第4回	精神看護学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析（4）
第5回	研究課題に関連した国内外の研究成果の検討（1）
第6回	研究課題に関連した国内外の研究成果の検討（2）
第7回	研究課題の中心概念の文献的考察（1）
第8回	研究課題の中心概念の文献的考察（2）
第9回	研究課題の中心概念の文献的考察（3）
第10回	研究課題の中心概念の文献的考察（4）
第11回	研究課題を解決するための方策を広範な学問分野・文献などから検討（1）
第12回	研究課題を解決するための方策を広範な学問分野・文献などから検討（2）
第13回	研究方法論の理論的基盤の検討（1）
第14回	研究方法論の理論的基盤の検討（2）

第15回	研究計画全体の検討
------	-----------

成績評価（基準と方法）	クラスでの討議・プレゼンテーション30%、提出物70%
教科書・参考書	適宜資料を配布する
授業外学習課題	プレゼンテーション資料の作成
オフィスアワー	学生と時間調整し適宜対応する

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230022
講義名称	精神看護学Ⅱ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 田井 雅子	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP6を修得するために特に重要な科目。DP2,4を修得するために重要な科目。
授業の概要	精神看護学領域で開発されているエビデンスに基づく看護介入方法を分析・考察する。研究の動向、実践の動向について分析し、新たな看護介入方法を開発する可能性を考察する。また、さまざまな状況にある精神疾患をもつ人やその家族を取り上げ、既存の研究成果や理論に基づき、精神疾患の病期に沿ってより健康に生活していくための新たな看護介入方法を開発する能力を修得する。 看護学教育・精神看護学領域の教育の動向と課題を分析・考察し、精神看護学をさらに発展させていくための新たな教育内容や方法を考案する。
達成目標（達成水準）	1.精神看護学領域におけるエビデンスに基づく看護介入方法を多角的に分析・考察できる。 2.既存の研究成果や理論に基づき、新たな看護介入方法を考案できる。 3.看護学教育・精神看護学領域の教育の動向と課題を多角的に分析・考察できる。 4.精神看護学領域の教育の質向上をさせる方策を考案できる。

授業計画表

回	内容
第1回	精神看護学の関心領域の実践・研究・研究の動向①
第2回	精神看護学の関心領域の実践・研究・研究の動向②
第3回	精神看護学領域における諸概念・理論・モデルの多角的分析・考察①
第4回	精神看護学領域における諸概念・理論・モデルの多角的分析・考察②
第5回	精神看護学領域における看護介入方法のエビデンス検索・構築①
第6回	精神看護学領域における看護介入方法のエビデンス検索・構築②
第7回	関心領域の看護介入方法の検討①
第8回	関心領域の看護介入方法の検討②
第9回	関心領域の看護介入方法の開発①
第10回	関心領域の看護介入方法の開発②
第11回	精神看護学領域における教育の動向と課題の多角的分析・考察①
第12回	精神看護学領域における教育の動向と課題の多角的分析・考察②
第13回	関心領域の看護教育内容・方法の検討①
第14回	関心領域の看護教育内容・方法の検討②

第15回	関心領域の看護教育内容・方法の開発
------	-------------------

成績評価（基準と方法）	クラス討議・プレゼンテーションの内容30%、提出物70%より総合的に評価する
教科書・参考書	適宜、資料を配布する
授業外学習課題	プレゼンテーション資料の作成
オフィスアワー	学生と時間調整し適宜対応する

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230023
講義名称	家族看護学Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 瓜生 浩子	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3を修得するために特に重要な科目。DP1,5を修得するために重要な科目。
授業の概要	家族の健康や家族生活に関わる現象を説明している看護学領域の理論を取りあげ、それぞれの理論の特徴や限界を分析する。また、家族へのケアに関する研究方法の特徴や限界を考察する。そのうえで、家族の健康生活を構築するために有用な理論開発の可能性を検討するとともに、家族の健康レベルを高めていく看護方法を開発する能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1. 家族看護学領域における国内外の研究・教育・実践の動向を多角的に分析し、研究課題を見出す。 2. 研究課題として見出した家族の健康や看護にかかわる現象を理解する上で有用な理論や概念について、文献的考察ができる。 3. 研究課題に即して研究の枠組み、方法論の検討ができる。

授業計画表

回	内容
第1回	家族看護学における我が国の研究の動向に関する文献の多角的分析
第2回	家族看護学における海外の研究の動向に関する文献の多角的分析
第3回	家族看護学における我が国の教育・実践の動向に関する文献の多角的分析
第4回	家族看護学における海外の教育・実践の動向に関する文献の多角的分析
第5回	研究課題に関連した我が国の研究成果の検討
第6回	研究課題に関連した海外の研究成果の検討
第7回	研究課題の中心概念の文献的考察1：我が国における研究の概観
第8回	研究課題の中心概念の文献的考察2：我が国における研究成果の検討に基づく概念分析
第9回	研究課題の中心概念の文献的考察3：海外における研究の概観
第10回	研究課題の中心概念の文献的考察4：海外における研究成果の検討に基づく概念分析
第11回	研究課題に関連する他の学問分野、文献を用いた考察1：他の学問領域における研究課題に関する研究の概観
第12回	研究課題に関連する他の学問分野、文献を用いた考察2：他の学問領域の文献検討をふまえた本研究課題の位置づけの検討
第13回	研究課題の明確化と研究方法論の理論的基盤の検討
第14回	研究方法論の理論的基盤の決定
第15回	研究計画全体の検討

成績評価（基準と方法）	課題への取り組み（40%）、プレゼンテーションの内容（40%）、ディスカッションへの参加度・貢献度（20%）などから評価する
教科書・参考書	適宜資料を配布する
授業外学習課題	事前学習課題、事後学習課題は、講義進行に合わせ、講義中に適宜提示する
オフィスアワー	随時

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230024
講義名称	家族看護学Ⅱ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 瓜生 浩子	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP6を修得するために特に重要な科目。DP2,4を修得するために重要な科目。
授業の概要	家族看護学領域で活用されている理論や既存の研究成果、実践の動向を分析し、家族看護学領域における現在の課題を明らかにする。また、さまざまな家族発達段階にある家族や健康問題をもつ家族に対して、家族の健康生活を構築するための看護介入方法を開発する能力を修得する。看護学教育および家族看護学領域の教育の動向と課題を分析・考察し、家族看護学をさらに発展させていくための新たな教育内容や方法を考案する。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none">家族看護学領域における看護介入方法に関する研究や看護実践の動向を多角的に分析、考察する。既存の研究成果や理論に基づき、新たな家族看護介入方法を考察する。看護学教育、家族看護学領域における教育の動向と課題を多角的に分析・考察できる。家族看護学領域の教育の質を向上させる方策を考案できる。

授業計画表

回	内容
第1回	家族看護学の関心領域の実践の動向に関する分析
第2回	家族看護学の関心領域の研究の動向に関する分析
第3回	家族看護学領域における諸概念、理論、モデルの多角的分析と考察1：海外における概念、理論、モデルの発展過程とそれらを実践・研究に活用する上での有用性と限界
第4回	家族看護学領域における諸概念、理論、モデルの多角的分析と考察2：我が国における概念、理論、モデルの発展過程とそれらを実践・研究に活用する上での有用性と限界
第5回	家族看護学領域における看護介入方法のエビデンスの検索1：海外の研究の動向の分析
第6回	家族看護学領域における看護介入方法のエビデンスの検索2：我が国の研究の動向の分析
第7回	関心領域の家族看護介入方法の検討1：関心のある領域を取り上げ、我が国の既存の文献等を用いて実践の動向を分析する
第8回	関心領域の家族看護介入方法の検討2：関心のある領域を取り上げ、海外の既存の文献等を用いて実践の動向を分析する
第9回	関心領域の家族看護介入方法の開発1
第10回	関心領域の家族看護介入方法の開発2
第11回	家族看護学領域における教育の動向と課題の多角的分析・考察1：海外の動向
第12回	家族看護学領域における教育の動向と課題の多角的分析・考察2：我が国の動向

第13回	関心領域の家族看護に関する看護教育内容・方法の検討1
第14回	関心領域の家族看護に関する看護教育内容・方法の検討2
第15回	関心領域の家族看護に関する看護教育内容・方法の開発

成績評価（基準と方法）	課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（40%）、ディスカッションへの参加度・貢献度（20%）などから評価する
教科書・参考書	適宜、参考資料を配布する
授業外学習課題	事前学習課題、事後学習課題は、講義進行に合わせ、講義中に適宜提示する
オフィスアワー	随時

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230025
講義名称	在宅看護学Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 未定	指定なし

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230026
講義名称	在宅看護学II
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 未定	指定なし

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230027
講義名称	地域看護学Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 石川 麻衣	看護学科

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230028
講義名称	地域看護学Ⅱ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 未定	指定なし
石川 麻衣	看護学科

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230029
講義名称	学校保健学Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 池添 志乃	看護学科

資格・区分等	専攻専門科目:選択
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3を修得するために特に重要な科目。DP1,DP5を修得するために重要な科目。
授業の概要	学校保健学領域で活用されている理論や概念について学修し、それぞれの理論や概念の特徴や限界を分析する。研究の動向、実践の動向について分析し、学校保健学領域での理論開発の可能性を考察する。また、児童生徒等とその家族を対象とした研究方法を学修する。さらに研究方法の特徴と限界を考察して新たな研究方法を開発する能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1. 学校保健学領域における国内外の研究・教育・実践の動向を多角的に分析し、研究課題を見出すことができる。 2. 研究課題として見出した看護現象に適した理論、概念の文献的考察をすることができる。 3. 研究課題に即した、研究の枠組み、方法論を検討することができる。

授業計画表

回	内容
第1回	学校保健学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献的多角的分析（1）
第2回	学校保健学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献的多角的分析（1）
第3回	学校保健学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献的多角的分析（2）
第4回	学校保健学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献的多角的分析（2）
第5回	研究課題に関連した国内外の研究成果の検討
第6回	研究課題に関連した国内外の研究成果の検討
第7回	研究課題の中心概念の文献的考察（1）
第8回	研究課題の中心概念の文献的考察（1）
第9回	研究課題の中心概念の文献的考察（2）
第10回	研究課題の中心概念の文献的考察（2）
第11回	研究課題を解決するための方策を広範な学問分野・文献などから検討
第12回	研究課題を解決するための方策を広範な学問分野・文献などから検討
第13回	研究方法論の理論的基盤の検討
第14回	研究方法論の理論的基盤の検討

第15回	研究計画全体の検討
------	-----------

成績評価（基準と方法）	クラスへの参加度・貢献度（10%）、プレゼンテーションの内容（20%）、研究計画の内容（70%）により評価する。
教科書・参考書	適宜、資料を配布する。
授業外学習課題	各回のテーマについての事前課題を前日までに提出したうえで、授業に出席すること。
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230030
講義名称	学校保健学Ⅱ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 池添 志乃	看護学科

資格・区分等	専攻専門科目:選択
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP6を修得するために特に重要な科目。DP2,DP4を修得するために重要な科目。
授業の概要	<p>学校保健学領域で開発されているエビデンスに基づく看護介入方法を分析・考察する。研究の動向、実践の動向について分析し、学校保健学領域における新たな看護介入方法を開発する可能性を考察する。児童生徒等の発達段階や健康レベルに沿って、児童生徒等と家族がより健康に生活していくための新たな看護介入方法を開発する能力を修得する。</p> <p>看護学教育および学校保健学領域の教育の動向と課題を分析・考察し、学校保健学をさらに発展させていくための新たな教育内容や方法を考案する。</p>
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none">学校保健学領域におけるエビデンスに基づく看護介入方法を多角的に分析・考察できる。既存の研究成果や理論に基づき、新たな看護介入方法を考案できる。看護学教育、学校保健学領域における教育の動向と課題を多角的に分析・考察できる。学校保健学領域の教育の質向上をさせる方策を考案できる。

授業計画表

回	内容
第1回	学校保健学の関心領域の実践・研究の動向
第2回	学校保健学の関心領域の実践・研究の動向
第3回	学校保健学領域における諸概念・理論・モデルの多角的分析・考察
第4回	学校保健学領域における諸概念・理論・モデルの多角的分析・考察
第5回	学校保健学領域における看護介入方法のエビデンス検索・構築
第6回	学校保健学領域における看護介入方法のエビデンス検索・構築
第7回	関心領域の看護介入方法の検討
第8回	関心領域の看護介入方法の検討
第9回	関心領域の看護介入方法の開発
第10回	関心領域の看護介入方法の開発
第11回	学校保健学領域における教育の動向と課題の多角的分析・考察
第12回	学校保健学領域における教育の動向と課題の多角的分析・考察

第13回	関心領域の看護教育内容・方法の検討
第14回	関心領域の看護教育内容・方法の検討
第15回	関心領域の看護教育内容・方法の開発

成績評価（基準と方法）	クラスへの参加度・貢献度（10%）、プレゼンテーションの内容（20%）、および学修課題（70%）を総合的に評価する。
教科書・参考書	適宜、資料を配布する。
授業外学習課題	各回のテーマについての事前課題を前日までに提出したうえで、授業に出席すること。
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。
備考	1つの課題について、180分の授業（90分×2コマ=180分）

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230031
講義名称	災害・国際看護学Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 木下 真里	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3を修得するために特に重要な科目。DP1,5を修得するために重要な科目。
授業の概要	災害や紛争、感染症など健康危機に関する研究や理論、実践の動向について学習し、グローバル社会における健康危機に貢献しうる看護の役割を考察する。また、健康危機に関する国内外の先行研究の特徴と限界を考察し、新たな研究方法を開発する能力を修得する。
達成目標（達成水準）	1.グローバル社会における健康危機の現状を説明できる。 2.災害がもたらす健康被害・看護ニーズを要因・素因・サイクルなどに沿って整理できる。 3.災害に関わる健康課題について、適切な実践・研究計画を組み立てることができる。

授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション 序論
第2回	グローバル・ヘルス・アジェンダ(1)(2)(3)
第3回	グローバル・ヘルス・アジェンダ(1)(2)(3)
第4回	グローバル・ヘルス・アジェンダ(1)(2)(3)
第5回	ワークショップ：グローバル・ヘルス・アジェンダ
第6回	災害と健康(1)(2)(3)
第7回	災害と健康(1)(2)(3)
第8回	災害と健康(1)(2)(3)
第9回	ワークショップ：災害と健康
第10回	災害看護活動の実際(1)(2)(3)
第11回	災害看護活動の実際(1)(2)(3)
第12回	災害看護活動の実際(1)(2)(3)
第13回	ワークショップ：災害看護活動
第14回	災害看護研究
第15回	まとめ

成績評価（基準と方法）	授業へのコミットメントとレポートにて総合的に評価する
-------------	----------------------------

教科書・参考書	資料を配布する
授業外学習課題	1-15 別途、事前に説明します。
オフィスアワー	いつでもメールで対応する

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230032
講義名称	災害・国際看護学II
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 木下 真里	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP6を修得するために特に重要な科目。DP2,4を修得するために重要な科目。
授業の概要	災害・国際看護学Iの後継科目として、災世界のさまざまな地域・環境で生活する人々を取り上げ、取りまく環境への健康適応状況を科学的に評価・分析し、最適な看護介入の方法を探索する能力を修得する。Problem Based Learning (PBL)やLogical Framework Approachなど、国際保健や開発援助の分野で広く用いられる評価・学習手法を用いて、最新の関連研究・実践の動向の分析を試みる。また、看護学教育および災害・国際看護学領域の教育の動向と課題を分析・考察し、災害・国際看護学をさらに発展させていくための新たな教育内容や方法を考案する。
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none">グローバル社会と地球環境がもたらす健康課題・看護ニーズを説明できる。国際社会の中で人々に対するケアを考える際の理論や概念を分析することができる。健康危機解決のための提案ができる。看護学教育、災害・国際看護学領域における教育の動向と課題を多角的に分析・考察できる。災害・国際看護学領域の教育の質向上をさせる方策を考案できる。

授業計画表

回	内容
第1回	社会構造の変化に伴う生活様式・健康課題の多様化
第2回	健康にかかるグローバル・アジェンダ
第3回	社会構造と健康行動モデルの変遷（1）
第4回	社会構造と健康行動モデルの変遷（2）
第5回	日本におけるグローバルな健康課題（1）
第6回	日本におけるグローバルな健康課題（2）
第7回	今日の共生社会における健康課題（1）
第8回	今日の共生社会における健康課題（2）
第9回	セルフマネジメントと文化
第10回	Problem Based Learningを用いた分析・学習(1)
第11回	Problem Based Learningを用いた分析・学習(2)
第12回	Logical Framework Approachを用いた計画・立案
第13回	Logical Framework Approachを用いたモニタリング・評価

第14回	グローバルな人材の育成
第15回	まとめ

成績評価（基準と方法）	出席状況とレポートにて総合的に評価する
教科書・参考書	資料を配布する
授業外学習課題	1-15 別途、事前に説明します。
オフィスアワー	appointment by email

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230033
講義名称	看護病態生理学Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 島本 亮	看護学科

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230034
講義名称	看護病態生理学II
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 島本 亮	看護学科

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230035
講義名称	看護経営管理学Ⅰ
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 久保田 聡美	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3を修得するために特に重要な科目。DP1,5を修得するために重要な科目。
授業の概要	看護経営管理の視点から、看護をシステムとして捉え、経営の3活動である、財務、生産、販売の各ステップに看護の業務を照らし合わせ、効果・効率的な看護活動を分析する。財務においては人件費の観点から看護実践能力を測定し、適正に人員を各看護単位に如何に配置するか等、また、生産・販売の観点からは患者満足度等のアウトカムの分析を行う。
達成目標（達成水準）	財務、サービス生産、サービス提供において、何がシステム要素で、それらがどの様に関係を持ち、それによりシステムがどのような機能を持つかを分析することができる。また、システム分析により捉えたシステムを効果・効率的に運用するために、自らのかわり方が種々の視点から探索でき、具体的なアプローチを提案できる。

授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	イントロダクション、サービスとは、医療・看護におけるサービス生産とは	久保田 聡美
第2回	システムとは、医療および看護システムとは、システムのとらえ方	久保田 聡美
第3回	看護システムと看護経営管理	久保田 聡美
第4回	ワークシステム分析と設計(ワークデザイン)	久保田 聡美
第5回	ワークシステム分析と設計(ワークデザイン)	久保田 聡美
第6回	問題解決技法とその本質	久保田 聡美
第7回	問題解決技法とその本質	久保田 聡美
第8回	看護サービスの提供システム	久保田 聡美
第9回	看護サービスの提供システム	久保田 聡美
第10回	看護実践能力とそれに対応した看護業務量	久保田 聡美
第11回	看護実践能力とそれに対応した看護業務量	久保田 聡美
第12回	質の保証と患者満足度、看護サービスの品質管理、医療におけるQCサークル活動とTQM	久保田 聡美
第13回	質の保証と患者満足度、看護サービスの品質管理、医療におけるQCサークル活動とTQM	久保田 聡美
第14回	質の保証と患者満足度、看護サービスの品質管理、医療におけるQCサークル活動とTQM	久保田 聡美
第15回	文献検討	久保田 聡美

成績評価（基準と方法）	最終レポート(100%)で評価する。
教科書・参考書	毎回プリントを配布する
授業外学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療・看護におけるサービスとは何か考察する 2 システムで対象を捉えることの意義を考察する 3 経営管理におけるシステム思考のメリットとデメリットを考察する 4-5 機能を展開することの意義を考察する 6-7 問題の本質は何か考察する 8-9 看護活動をシステムの視点により整理する 10-11 看護システムにおける人的資源の位置づけを考察する 12-14 医療・看護における質の管理の意義を考察する 15 医療・看護サービス生産システムの質に関する文献を検討する
オフィスアワー	授業終了後、研究室にて待機しています。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230036
講義名称	看護経営管理学II
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 久保田 聡美	看護学科

ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3を修得するために特に重要な科目。DP1,5を修得するために重要な科目。
授業の概要	看護経営管理の視点から、看護をシステムとして捉え、経営の3活動である、財務、生産、販売の各ステップに看護の業務を照らし合わせ、効果・効率的な看護活動を分析する。財務においては人件費の観点から看護実践能力を測定し、適正に人員を各看護単位に如何に配置するか等、また、生産・販売の観点からは患者満足度等のアウトカムの分析を行う。
達成目標（達成水準）	財務、サービス生産、サービス提供において、何がシステム要素で、それらがどの様に関係を持ち、それによりシステムがどのような機能を持つかを分析することができる。また、システム分析により捉えたシステムを効果・効率的に運用するために、自らのかわり方が種々の視点から探索でき、具体的なアプローチを提案できる。

授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	イントロダクション、サービスとは、医療・看護におけるサービス生産とは	久保田 聡美
第2回	システムとは、医療および看護システムとは、システムのとらえ方	久保田 聡美
第3回	看護システムと看護経営管理	久保田 聡美
第4回	ワークシステム分析と設計(ワークデザイン)	久保田 聡美
第5回	ワークシステム分析と設計(ワークデザイン)	久保田 聡美
第6回	問題解決技法とその本質	久保田 聡美
第7回	問題解決技法とその本質	久保田 聡美
第8回	看護サービスの提供システム	久保田 聡美
第9回	看護サービスの提供システム	久保田 聡美
第10回	看護実践能力とそれに対応した看護業務量	久保田 聡美
第11回	看護実践能力とそれに対応した看護業務量	久保田 聡美
第12回	質の保証と患者満足度、看護サービスの品質管理、医療におけるQCサークル活動とTQM	久保田 聡美
第13回	質の保証と患者満足度、看護サービスの品質管理、医療におけるQCサークル活動とTQM	久保田 聡美
第14回	質の保証と患者満足度、看護サービスの品質管理、医療におけるQCサークル活動とTQM	久保田 聡美
第15回	文献検討	久保田 聡美

成績評価（基準と方法）	最終レポート(100%)で評価する。
教科書・参考書	毎回プリントを配布する
授業外学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療・看護におけるサービスとは何か考察する 2 システムで対象を捉えることの意義を考察する 3 経営管理におけるシステム思考のメリットとデメリットを考察する 4-5 機能を展開することの意義を考察する 6-7 問題の本質は何か考察する 8-9 看護活動をシステムの視点により整理する 10-11 看護システムにおける人的資源の位置づけを考察する 12-14 医療・看護における質の管理の意義を考察する 15 医療・看護サービス生産システムの質に関する文献を検討する
オフィスアワー	授業終了後、研究室にて待機しています。

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230037
講義名称	看護学特別研究 I
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 未定	指定なし

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230038
講義名称	看護学特別研究 II
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	2.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 未定	指定なし

更新日時	2026/03/31 9:00:04
年度	2026
講義コード	63230039
講義名称	看護学特別研究III
開講責任部署	看護学研究科看護学専攻博士後期課程
講義区分	講義
基準単位数	4.0
講義開講時期	通年
校地	
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 未定	指定なし